

2014年6月4日
株式会社ニレコ(6863)

2014年3月期決算説明会 主な質疑応答

Q1：選果装置について。前期は国内環境が厳しい状況だったのが、今期はそれが改善するという理由を詳しく教えて欲しい。

A1：老朽化した設備を更新したいというニーズはかなりある。今期農水関連予算の実行期限が8月なので、その辺りで進むと見ている。

Q2：海外の選果装置の競合状況と、今期、来期の海外向け規模の見通しは？

A2：昨年度は米国カリフォルニアの生産者に導入が進んだ。円安メリットもあるが、凍結した果実の検出ができる点など、高い検出能力で他社とは差別化できている。実際、現地でおこった冷害により被害を被った果実を検出でき、ユーザーからは高い評価を得た。規模としては、実感として日本の規模のおよそ3倍といった選果場がいくつかあるので、潜在市場としてはかなり大きいと見ている。

Q3：ウェブ事業の真空環境対応製品は、タッチ・パネル向けだけだと今後の見通し厳しいのでは？

A3：プリンタブル・エレクトロニクス向け電子部品も想定しているが、まだ市場の動きが鈍い。

Q4：設備投資の新棟建設計画概要について教えて欲しい。

A4：BCPの一環として耐震診断をした結果、一部棟の建替えとその他棟の補強工事を決定した。新棟は5月着工、年末には竣工。来年5月迄には全ての工事が完了予定。

Q5：鉄鋼関連の受注好調はいつまで続くと見ているか？

A5：安全を確保するための定期的な更新需要は今後も継続していくと見ている。更新需要は古い製品に対するものが多いが、当社としては、それだけに留まらず、新しい技術による製品を提案することでユーザーの潜在需要も開拓していく。

Q6：製袋検査装置の国内市場規模は？

A6：例えば食品や薬品の袋を想定しており、それらに関連した市場は景気の影響を受けないと見ている。ただし、全く新しい製品なので正確な市場規模はつかみきれない。これからの営業活動の中で見極めていきたい。

以上